

本時のねらい

マット運動において、お互いに撮影しあった動きを見て演技についてアドバイスし、連続技をブラッシュアップし、「美しく雄大な技」の習得をする。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

学習ソフトを活用することにより、生徒が互いにその動きを共有して、イメージしにくい自身の動きを視覚化することができる。

お互いに動きをモニタリングして、いいところやこうしたほうが良いと思うポイントを見つけ、伝え合い、対話的な学びが生まれることで、技能の向上につながる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・生徒用タブレット型 PC (iPad) ・ロイロノート ・大型テレビモニター

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10分)	あいさつ(本時のねらいの説明と前回の振り返り) ランニング・ラジオ体操	
展開 (30分)	ペア活動の説明 ・iPadの配付と説明を行う。 ・お互いに動きを見るペアの確認と、ロイロノートの準備 連続技の練習 ・代表生徒の動きを撮影したものを、モニターに投影し、いいところ、アドバイスなどを考え、全体で共有する。 ・ペア同士で動画を撮影し、動画とアドバイスを記入したノートをお互いに送信する。 アドバイスをもとにして、さらに演技をブラッシュアップするために練習する。	ノート機能に自分の考えを記入し、教員機に提出するとともに、生徒間回答共有機能を ON にして、ペアの生徒同士でお互いの考えを知ることができる。
まとめ (10分)	取り組みの発表 ・iPadの回収 ・次回の内容確認	全体で共有したいノートを大型モニターに投影し、生徒のタブレット PC にも当該の画面を配信して共有する。 いい点、やってみたい点、自分にはない点などをふりかえる。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



写真1 撮影された自分の動画と送られたアドバイスを確認している様子



写真2 代表者の動きを撮影している様子



写真3 ペアに撮ってもらった動画を確認している様子

児童生徒の反応や変容

- ・動画によって視覚化することで、自らの動きの改善点を自分で気づくことができ、有効であった。
- ・お互いにアドバイスを送り合う際に、何度も動画を見直し、相手に伝えようとしていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・相手にとってより効果的なアドバイスをするために、動画があると何度もふり返ることができ、イメージを伝えやすい。
- ・どこがよくて、どこが改善点なのかをその場で考えて、ふりかえることができたので、使わなかったときに比べ、自然と対話が生まれていた。